

令和6年度第2回青少年ホーム運営委員会 会議録（要約）

1 日時

令和7年3月17日（月）19時00分から20時30分

2 場所

松本市なんなんひろば 会議室

3 出席者

曾根原考俊委員、二茅真由美委員、小澤美智子副委員長、勝亦達夫委員長

4 事務局

廣田生涯学習課長、永井青少年ホーム所長、小船井青少年ホーム主事

5 議事

(1) 令和6年度事業経過報告について

(2) 青少年ホームの組織改編について

6 意見

(1) 令和6年度事業経過報告について

- ・（小澤副委員長）多くの事業を実施され、感心しました。ハタチの記念式典の運営も、工夫を感じました。しかし、事業が知られていないことは、もったいないと感じます。PRをどのようにしていくかだと思います。
- ・（曾根原委員）第1回委員会で説明いただいた計画に基づいて、しっかりと活動をされていることが、よく分かりました。参加者が少ない事業でも、それなりに成功していると感じました。「継続は力なり」で、大事だと思います。ハタチの記念式典は、こういうやり方もあるのかと思いました。今後も、若者に関する様々な事業に関係していただければと思います。若者の就職に向けての情報は、ハローワークや求人情報誌を紹介しています。
- ・（二茅委員）けん玉体験会や居場所事業については、子どもや保護者、若者が開催内容を見つけやすいようにPRすることが必要だと思います。また居場所事業については、当事者が思う居場所と設営者・支援者が思うものの隔たりを感じます。個別ニーズにも対応できる居場所が必要だと思います。例えばマンガ・アニメの愛好者は、誰かに見てもらう手段や、同じ愛好者とどうやって知り合ったら良いか等が分かれればいいと思います。

また、ハローワークの申請までに至らない当事者の支援が課題になっています。不登校等が原因で通信制高校へ通学する人が増加していますが、高校を卒業することが一番の目的であることが多く、就職は二の次になってしまい、その辺のサポートが

薄いと感じています。よって、祖父母が孫のことを心配する相談も増えています。

- ・（勝亦委員長）多種多様な活動をされていると思います。一例として、コーディネーター事業は異色で面白いと思います。担い手が増えれば、多種多様な講座ができると思います。 ヤングスクール等の事業については、参加者数だけではなく「何をやっているか」といった内容を目標・評価した方がいいと思います。

また、ひきこもり研修会で実施いただいているグループワークは、参加者の意見を聞きながら、求められている点を伸ばすことができると思います。

ハタチの記念式典の実行委員については、一案として高校生の卒業時にアプローチをしてみても、いかがでしょうか。また、実行委員から後輩に声をかけてもらうよう依頼するのもいいと考えます。また、「青少年ホーム」のネーミングも検討する時期かと思います。

- ・（二茅委員）私たちの事業でも、ネーミングの工夫が必要なことは、感じています。
- ・（廣田課長）参加人数が少ない事業でも、大事な事業であることを訴えていきたいと思います。参加人数が少ないことを理由に財政課から予算が削られやすい傾向があります。

その意味で、今回の資料では事業目的の記載がないものがあるので、統一して記載した方がいいと思います。

(2) 青少年ホームの組織改編について

- ・（勝亦委員長）松本市では、子育て支援はどのような方針でしょうか。

今の若い人たちの考え方は、就職後も仕事以外のことを充実したい考えの人が多いです。結婚後も、子育てをしやすい環境づくりを行っていただければ、ありがたいです。

- ・（曾根原委員）中小企業でも、福利厚生はしっかりしているところは多いです。